

2022 年度(令和4年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 25	福山市立一ツ橋中学校
最終更新日		2022年(令和4年)4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 めざす子ども像の実現に向け、どのように教育活動が進んでいるのか、見えにくかった。コロナ禍で制限はあるが、工夫して、情報発信してほしい。子どもたちが生き生きと学ぶ姿が見える取組を期待する。	児童生徒の現状 授業改善により、自ら学ぼうとする意欲の向上が見られ、授業満足度は向上傾向にある。「探究的な学習」の研究を校区で進め、探究する姿が見えるようになってきた。不登校傾向の児童生徒には個々に応じた学び方を選択させることに課題が残る。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「対話する力」「自己・他者理解力」「自己効力感」 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。 小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。 探究的な学習の充実に向け、小中で連携して、PBL(プロジェクト型学習)の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元を開発・実践する。
--	---	---	---

III 自校

ミッション 探究心を持ち、自律・貢献する生徒を育てる	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 中期 後期	学びに向かう力 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって、粘り強く取り組もうとしている。 ・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かそうとしている。	課題発見・解決力 ・自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決をよりよい方法を選択し取り組んでいる。 ・未知の状況にも対応できる。 ・事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組んでいる。 ・未知の状況にも対応できる。	対話する力 ・個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりすることができる。 ・個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自己の考えを広げ深めることができる。
学校教育目標 自ら輝く、ともに輝く				
現状 ＜生徒＞「学校は楽しい」・「探究することはおもしろい」85%、「仲間と一緒に活動することは楽しい」92%の肯定回答であり、学校で仲間と楽しく協働的に探究的な学習に取り組んでいる。課題としては、「自分一人で学習することはおもしろい」60%の肯定回答であり、4割の生徒は一人で学ぶことに課題があり、保護者アンケート「家庭学習を計画的に行っている」60%と一致している。 ＜授業＞「学校での学習は全体的におもしろい」88%、「グループで協力して学習することはおもしろい」94%、「授業で学んだことを生活にいかしたい」87%、「正しい答えを出すことよりも、自分で考えることが大切」87%と、授業に真剣に取り組む、仲間と共に深く考えようとしている。課題としては、その学んだことを発信することである。	テーマ 自己探究	研究 内容等 自ら考え学ぶ授業 ～探究的な学習(総合的な学習の時間)における 単元計画開発及びルーブリック開発の実践を通して～		
	めざす授業の姿	・自ら問いを見出す場、考える場、深め合う場があり探究する授業 ・教師がファシリテーターとして機能している授業 ・テキスト(教材)、仲間、自分との対話のある授業		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立一ツ橋中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価
5	自ら考え学ぶ授業の推進	★	継続	めざす授業の姿の視点で ・自ら問いを見いだす場、考える場、深め合う場があり探究する授業 ・教師がファシリテーターとして機能している授業 ・テキスト(教材)、仲間、自分との対話のある授業	・生徒が教科における問いや課題を見出し、教科の深まりを実感できる授業づくり ・1人1台端末を主体的な学びのために有効活用し、探究的な学習と繋げる	・生徒満足度アンケート 80% ・教職員達成度アンケート 80% ・思考力、判断力、表現力(選抜Ⅱ参考)を工夫した定期テストの問題での無答率 10%未満								
5	自己指導能力を育む教育活動の推進		継続	めざす子ども像の視点で、 ・総合的な学習の時間 ・学校行事、生徒会活動を企画・実施・評価	・探究的な見方・考え方を働かせる単元開発 ・生徒会主体の学校行事の開催 ・通級指導教室、ひまわり、SCを活用した居場所づくり	・年間4回研修実施、各学年、単元指導計画の見直し ・仲間と一緒に活動するのは楽しいと感じる生徒 90%以上 ・不登校生徒全校生徒の 8.5%未満								
9	子ども主体の健康・体力づくりの推進		継続	・新体カテストの結果向上 ・残食率減少のための昼食時間の確保	・体育の種目と関連項目の重点化 ・運搬と配膳の時間を生徒自らが設定	・新体カテストの1年間の個人向上率を80%以上 ・給食の残食率 7%以下								
1	働き方改革の推進と教育の質の向上		新規	・超過勤務の縮減 ・授業づくりを行う時間の確保 ・自分の個性が認められているという実感	・業務の偏り・重なるの改善のための組織再編 ・毎週の定時退校日の確実な実施と確認 ・アイデアを出し合える組織づくり	・時間外勤務 45時間以内 90% ・教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保できる」80% 「自分の個性が認められているという実感がある」80%								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。